

## 地域への関心や意識を高める

### 10 地域の子供たちをまちづくりに導く

蔵の街として知られる栃木市には、江戸、明治、大正、昭和とその時代を語り継ぐ文化遺産が多く残る歴史的な町並みがあり、そこは今もなお人々の生活の場として重要な役割を果たしている。しかし、時代の変化とともに、まちの伝統文化を語り継ぐ景観や地域コミュニティは失われつつある。そのような中で、地域固有の魅力を活かしたまちづくりを行ない、豊かで住みやすい町とするのは今の小・中学生である。そこで、栃木市全域の小中学生に対して、まちの伝統文化を再発見し、それを語り継ぎ、暮らし続けたいアイデアを募集(図1)した。この事業では子供たちが主力となって地域や家庭を守っている2050年頃に、このまちはどうなっているのだろうか？この問いに対する子供たちのアイデアを手掛かりに、栃木市の未来や守りたい伝統文化を地域のステークホルダーと一緒に考えられることを期待した。小学生の部では「伝統をつなぐ未来予想図コンテスト」を、中学生の部では「未来に伝えたいものは何か？写真コンテスト」を開催し、作品を募った。実施に当たっては、栃木市教育委員会と連携し、栃木市校長会での協力要請のほか、栃木市内にある全小中学校40校を訪問して、コンテストの主旨とその意義を説明しつつ応募を募った。近年の市町合併によって広域化した栃木市において課題地をあえて旧市中心部に設定し、合併後の全市の小中学生に告知したのは、市および市民にとっても掛け替えのない資産を旧市内だけでなく、新市全体のものとして、子供だけでなく、見守る大人たちに意識してもらうこと、さらにそのような企画への参加を通じて、旧町村にも存在する固有の伝統や文化にも目を配るきっかけとなると考えたからである。コンテストには、全市域から合計202点の作品応募があった。それら作品について、とちぎ協働まつりやとちぎふるさと祭、さらに市役所本庁舎ロビーで展覧会(写真1)を開催し、子供たちの創意を地域のステークホルダーと共有する機会を設けた。また、このコンテスト開催に当たっては、栃木市、栃木市教育委員会の後援のほか、市内の様々な団体との共催で実施した。主催・共催団体の代表者らによる厳正な審査で選ばれた優秀作品を褒賞(写真2)し、さらに地域の商工観光関係の団体・企業の協賛により参加した子供たちへのご褒美が贈られた。この他にもプロジェクトでは、栃木市嘉右衛門町伝建地区(以下、嘉右衛門町地区)のジオラマを製作するワークショップを地域の小学生と共に行なった(写真3)。将来のまちづくりを担う子供たちが参加しやすいように夏休み期間に開催し、延べ30人の小学生が参加した。製作にあたっては、建築系の大学生がサポートした。模型製作を通じて子供たちの地域への愛着の高まりに加えて、完成した模型は地域に置くことによって住民らが地域への誇りを高め、地域づくりの議論を進めるツールとして活用されていくことを期待した取組みである。

一方で小中学校の総合学習などの時間を活用して地域の歴史や文化に触れる機会を設け、地域への関心や誇りを高める取組みが持続的に行われようとしている。例えば小学校では、「子ども学芸員(写真4)」として、4年生の総合学習で調べて学んだ嘉右衛門町の歴史等を来訪者に説明する機会を設けたり、栃木の例幣使街道を考える会や嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会と共催で「子ども例幣使行列(写真5)」などの、地域協働で地域の歴史や文化に触れる教育活動を推進し、人間性を養う取組みが始まった。さらに中学校では、「ふるさと「栃木」のまちづくりを考える～蔵べよう 仲間と共に 小江戸探検～」と題する地域研究の時間を設けている。この学習では栃木の伝統文化に関する講話やまち探索を行った後に、栃木と同様に蔵の街として有名な川越市を見学し、栃木と川越の違い等をまとめ・発表するようなプログラムを行っている。



図1 コンテストの募集ポスター



写真1 作品発表会



写真2 授賞式の様子



写真3 嘉右衛門町地区ジオラマ製作ワークショップ



写真4 子ども学芸員による町並みガイド



写真5 子ども例幣使行列